

漁況予報 い わ し

第 216 号

【2019 年 11 ~ 12 月漁期】

※1 平年：過去 5 年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概 況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、9 月は 28 トンで前年(151 トン)および平年※¹(129 トン)を大きく下回りました。10 月は 12 トンで前年(133 トン)および平年※¹(41 トン)を大きく下回りました。

まき網では、東京湾側、相模湾側ともにほとんど漁獲がありませんでした。

魚体は、2019 年生まれの被鱗体長※² (以下同) 10~13cm の 0 歳魚が主体でした。マイワシは、ウルメイワシに混じる程度であり、散発的な漁模様となりました。

なお、本期間は台風の影響で、例年よりも水揚げ回数が少なかったことも不漁の原因として挙げられます。

【カタクチイワシ】

主要定置網における 9 月のカタクチイワシ総漁獲量は 2.3 トンで、前年 (1.5 トン) 並で平年 (3.3 トン) を大きく下回りました。続く 10 月の漁獲量 (速報値) は 1.7 トンで、前年 (0.9 トン) 並で平年 (3.9 トン) を下回りました。

まき網では、東京湾側、相模湾側ともにほとんど漁獲がありませんでした。

相模湾では 7-8 月漁期に続きウルメイワシの来遊量が多く、カタクチイワシの姿は殆ど見えない 2 ヶ月となりました。

【シラス】

8 月の相模湾のシラス漁は大不漁だった前年の 2 倍程度の漁獲となったものの、台風 10 号の影響もあり低調で推移しました。9 月に入るとやや好転し、中下旬に特に西側の漁場で漁獲量が多くなり、湾全体では前年、平年の 2 倍程度の漁獲となりました。

10 月に入ると、台風 19 号の影響もあり、出漁自体を控える日が増えました。魚探反応は薄く、獲れても続かないことが多くなり、平年、前年の 4 割程度の漁獲にとどまりました。海況的な要因の解明が必要ですが、6, 7 月の沿岸でのカタクチイワシの産卵量は昨年引き続き低水準だったことから、湾内生まれのシラスの分布量は少なかったのではないかと考えられます。

= 予 報 =

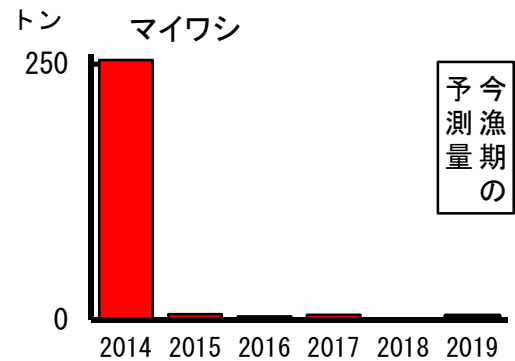
過去5年の11・12月漁期の漁獲量と
今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2019年生まれの小羽マイワシ（11～13cm）が漁獲の主体となるでしょう。

9月以降、相模湾から0歳魚は逸散したと思われま

す。今漁期の漁獲量は、不漁だった前年並の約3トンと予測されます。

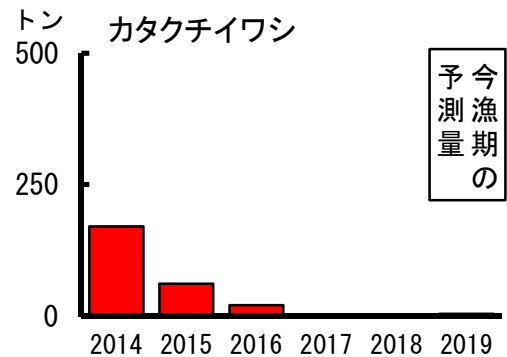


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、2019年生まれの未成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

2016年から、夏以降のカタクチイワシ漁獲量は著しく不漁傾向にあり、今漁期の漁獲量も、不漁だった前年並の約2トンと予測されます。



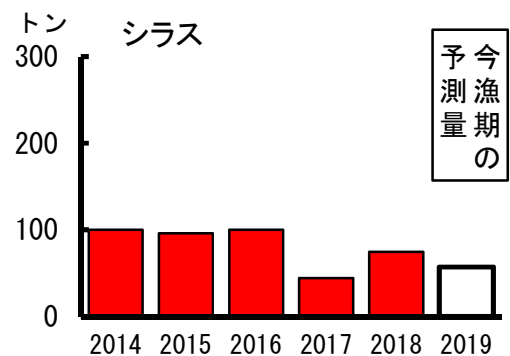
※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、カタクチシラス主体に11月はウルメシラスが、12月にはマシラスが混獲されるでしょう。

黒潮大蛇行は解消する兆しを見せていません。少なくとも来年1月まで継続する見込みです。しかし、大蛇行＝シラスの不漁というわけではなく、流路変動によって湾内への暖水流入の仕方が変わることによって、漁模様は大きく変わる可能性があります。また、8、9月の湾内でのカタクチイワシ産卵量は低水準で、湾内生まれのシラスの加入もわずかであると予想されます。

今漁期のシラスを生む親の発生量の指標から推定した11、12月漁期の漁獲量は、例年より少ない約57トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター栽培推進部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2314